

### 県営ほ場整備 事業が完了

近代的な農業基盤整備を目指した県営ほ場整備事業の事業実施がこのほど完了し、十一月七日、記念碑の除幕式と竣工祝賀会が行われました。

県営ほ場整備事業は昭和四十九年度に事業着工、総事業費三百二億円をかけて十八年がかりで進められていたもの。この事業により、三千六百七十二畝の水田が平均四〇ア区画の乾田に生まれ変わり、三千四百三十七畝に暗渠排水が施されました。また、全長四百六十八メートルの農道整備や用排水の施設整備も行われました。

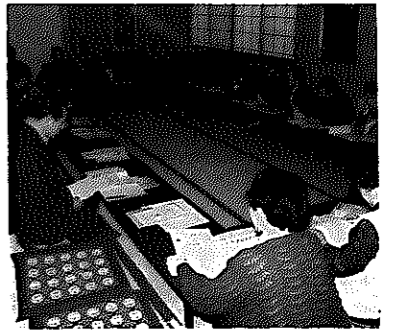
土地改良区前に建てられた記念碑には白根郷の農業の沿革と同事業の概要が刻まれ、事業を後世に残しています。



### 生涯学習地区推進 連絡会議開催

生涯学習で地域の活性化を図ろうと、九月末から十一月にかけて、各地域生活センターで生涯学習地区推進連絡会議が開かれました。参加したのは地区公民館運営審議委員や部落長、婦人会、老人クラブの役員などです。各地区ともに、生涯学習を通じて地域活性化のために何から取り組めばよいか、さまざまな意見が出されました。明るい地域づくりの目標を掲げようという地区、婦人活動を活発にしようという地区、イベントを開催しようという地区など、それぞれ個性のある取り組みが検討されました。

担当の社会教育課では、今後この会議を年に三回程度開き、生涯学習による地域づくりを進めていきたいとしています。



### 好評、施設巡り ぐるり白根

市内をバスで回りながら、白根市の施設やあらましを知ってもらおうと、市と中央公民館が企画した施設見学会「ぐるり白根」。十一月六日にパート1が、十日にパート2が行われ、合わせて約五十人の市民が参加しました。

見学会では白根庭園や仏壇の製造工程、カルチャーセンター、民俗資料館などを見学。また、パート1では佃田製菓、ダイニチ工業を、パート2ではシメジ栽培の見学をしました。参加者の一人は「初めて通った道もあって、おもしろかったです。近くにいい所があるのに、意外に知らないものです」と感想を。車中では賞品が当たるお楽しみクイズも行われ、和やかな施設巡りとなりました。



### 身近な要望が 市政懇談会

今年度の市政懇談会が各地域生活センターなどを会場に、十月中旬から十一月にかけて開かれました。

懇談会では各地区とも身近な集落内の問題が数多く提言されました。最も多かったのは道路の改良を求める要望。道路の拡幅や舗装、歩道の整備や交通安全施設の設置など、生活に密着した集落内の道路だけに、要望も細やか。そのほか側溝の改善、環境衛生問題、防災施設の整備、通学路などの教育環境整備、用排水路の整備など、多くの要望事項が出されました。

市ではこれらについて、緊急性や重要性などを考慮しながら、できる限り来年度予算に反映させていきたいとしています。



### 市社会福祉大会 開催

十一月五日、豊かな福祉社会の実現を目指した市社会福祉大会が開かれました。会場のサルナート吉運堂には約二百人が出席。木川雅子さん（中央保育園母の会会長）らの体験発表や、記念講演に耳を傾けました。

席上、次の人たちが表彰を受けました。（敬称略）

〔福祉功労表彰〕▽河内レン（次郎右工門興野）▽星ハル（下八枚）▽小柳ヤエ（犬婦新田）▽石橋敏男（日の出町）

〔永年勤続功労表彰〕▽知野俊巳（上新田）▽宮下勝子（庄瀬上町）▽後藤芳（菱沼新田）▽安藤安雄（下塩俣）▽高橋節（旭町3）▽野内アイ（砂押2）▽符合松雄（桜町1）

▽若槻教永（五六の町3）

〔感謝状〕▽白根ライオンズクラブ（平山一良会長）▽東北電力のぞみ会（田中ミヨ会長）



### 青年リーダー海外研修記

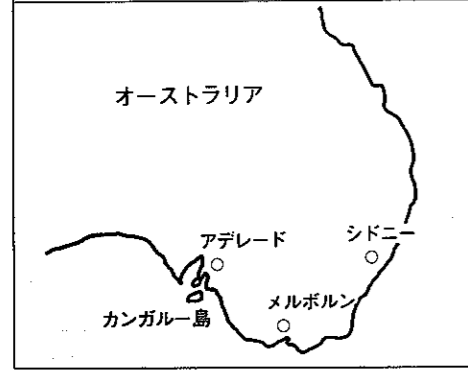
## 初体験、オーストラリア珍道中

わくわく、ドキドキ、はらはら、ウキウキの12日間

佐藤 淳子



さとう・じゅんこ（白井・歯科助手）  
剣道、茶道、和裁をこなすピチピチ26歳。  
明るい性格で青年団活動にも大活躍。



### 二泊三日の ホームステイ

ハロー！ ちゃっぴちちゃの白根っ子の私。言葉のハンディを超えた、オーストラリアでの体験です。この研修「新潟県青年リーダー養成海外研修」は、県が青少年の育成、地域活動の促進を目的に年一回開催。九月六日から十二日間、アデレード市を中心にホームステイ、施設見学などを行いました。その中でも短期間にたくさんの方に出会えた、二泊三日のホームステイの出来事を紹介しましょう。

金曜日の夕方から始まったホームステイ。初日はホストファミリーであるライトさんの友人ホリデーさんの家で夕食会がありました。よほど日本に興味があったのか、私の歓迎か、いき

### やっと通じた 「剣道」

話題が進む中、「日本語で、2、3はと言うの？」という質問。「いち、に、さん」と答えたら「イチ、ニ」を言うと同時に、ひざをかきながら、私に何か伝えようとしています。聞いてみると「イチ」は「Ich（かゆい）」、「ニ」は「Nee（ひざ）」で、つなげると「ひざがかゆい」という意味。私は日本語を教えていたつもりが、逆に一本取られていたわけです。

ところがなかなか伝えられないことが一つありました。「何かスポーツをしているの？」の質問に「ジャバニーズ・フェンシング（剣道）」と答えたりも「フィッシング（釣り）」に聞こえたりするのは、食事中で手元に辞書はなく、ひたすら「ノー、フェンシング！」と言い続けた私。竹刀を握るまねをしてみたり、フェンシングのまねをしました。どうしても釣りざおを振り回すようにしか見えなかったようです。



▲地元青年との交流会で一緒に歌を



▲ホームステイ先のライトさん一家

結局、剣道を理解してもらえなかったのは、長い夕食も終え、ライトさんの家へ帰宅してからでした。辞書を開き、剣道を説明するために用意してきた剣士会のけいこ風景の写真を見せ、テープを聞かせたところ「オー！フェンシング！」と納得した様子。私もやっとの思いで通じたことに感激した第一目でした。

### 子供との触れ合い 抹茶に「苦い」

ライトさんのお宅は私のあこがれでもある「大草原の小さな家」のような、自然に囲まれた、温かな家族愛あふれるすてきな家庭でした。ここでは集まった子供たちと木登りしたり、日本から持ってきた折り紙の本を見ながら鶴や船を作ったりと、子供とのコミュニケーションが主でした。そのとき子供たちが

本の文字に興味を示したので、平仮名と片仮名を表にして説明しました。何とか理解できたようで、大喜びで自分たちの名前を得意そうに書いてくれました。私は説明できたうれしさと子供たちの笑顔に感激。この研修で一番感激した出来事でした。

ホームステイ最後の日はお世話になったお礼も兼ねて、抹茶と着物を紹介。茶せんや茶杓などの竹細工に感心した様子です。初めて飲む抹茶に「苦い」と驚き、いやな顔をしながらも飲み干してくれました。着物は予想どおり好評だったようです。しかし、着物は用途によって多様なことをうまく説明できなかったのが残念です。もし、再びアデレードを訪れることがあるならば、そのときのために、もっと自分を磨かなければと感じながら帰国しました。